

北海道百年記念広場（仮称）の整備等に関する説明会

1. 交流空間構想の策定に至る経緯について

- (1) 百年記念施設の主な沿革
- (2) 北海道150年に向けて
 - ①百年記念施設の継承と活用に関する考え方
 - ②道民、専門家の方々の意見聴取など
 - ③ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想
- (3) 交流空間構想の実現に向けて
 - 野幌森林公園エリアの活用の方向性

2. 百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について

- (1) 百年記念塔の概要について
- (2) 百年記念塔の維持管理について
- (3) 百年記念塔の現状について
- (4) 百年記念塔の安全性について
- (5) 将来世代の負担について
- (6) 保存方法の検討について

3. 百年記念広場（仮称）の整備について

- (1) 百年記念塔の解体工事費について
- (2) 新たなモニュメントについて
- (3) 百年記念広場（仮称）整備事業について

1. 交流空間構想の策定に至る経緯について

(1) 百年記念施設の主な沿革

区 分	北海道博物館	北海道開拓の村	北海道百年記念塔
着 工	昭和43年(1968)	昭和52年(1977)	昭和43年(1968)
完 成	45年(1970)	57年(1982)	45年(1970)
一般公開	46年(1971)	58年(1983)	46年(1971)

(2) 北海道150年に向けて

① 百年記念施設の継承と活用に関する考え方（平成29年11月）

平成30年に北海道150年を迎えるにあたり、平成28年以降、有識者による懇談会において、道民の貴重な財産である百年記念施設を、今後の50年、100年先をも展望しながら、次の世代にどのように引き継いでいくのが相応しいかを検討し、今後の議論の方向性をまとめました。

区 分	現状・課題	今後の方向性
エ リ ア 全 体	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化などによる利用者数の減少 ・自然豊かで各種施設が集積している□ ・利点を最大限に活かせる可能性 	施設ごとの点としてではなく、自然豊かな周辺地域を含めた空間として捉え、自然・歴史・文化体感交流空間として再生を目指す。
博 物 館	<ul style="list-style-type: none"> ・機能強化や更なる魅力向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・本道の中核的博物館、道民参加型博物館としての機能の充実、魅力向上
開 拓 の 村	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の減少傾向 ・利用者確保対策 ・建造物の計画的な修繕・財源確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪日外国人の受入対策の強化 ・民間資金・活力の導入可能性の検討 ・代替素材を活用した修繕手法の導入検討
百 年 記 念 塔 記 念 塔 前 広 場	<ul style="list-style-type: none"> ・錆片の落下など劣化が進み、平成26年7月から一般利用者立入禁止 ・今後の維持のためには、多額の費用負担が見込まれる状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性や将来世代の負担軽減、周辺施設との関連など様々な観点から引き続き検討 ・レリーフを活かした新たなモニュメントの設置等、本道の歴史に対する思いを引き継ぐ手法も検討

1. 交流空間構想の策定に至る経緯について

②道民、専門家の方々の意見聴取など

「百年記念施設の継承と活用に関する考え方」に基づき、百年記念施設を含む周辺地域を、次の世代にどのように引き継いでいくのか、道民の皆様や地域の関係団体、専門家の方々から幅広くご意見を伺いました。

□住民等を対象としたアンケート調査の実施

・施設利用者（回答数：155件）、全道の社会人及び大学生（回答数：690件）

□百年記念施設の継承と活用に関する道民ワークショップの開催

テーマ：50年後を見据えた自然・歴史・文化「体感」交流空間としての再生
・一般道民及び大学生を対象に、3回開催

□大学への出前講座の開催

・北海道大学及び札幌学院大学において、2回開催

□専門家ヒアリングの実施

ヘリテージマネージャー、古民家再生、公園デザイン、資金調達、交通事業者、施設利用者や学識経験者など、各界の専門家からご意見を伺いました。

□庁内検討会議の開催（3回）

・再生構想の取りまとめにあたり、有識者を招いて意見を伺いました。

□構想（素案）公表（平成30年9月）

□パブリックコメントの実施（平成30年9月～10月）

・意見の提出状況 17個人、3団体 意見計 64件

1. 交流空間構想の策定に至る経緯について

③ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想（平成30年12月）

道では、百年記念施設に自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を、歴史、文化、自然を体感し交流できる空間として再生し、次世代に伝えていくための構想を取りまとめました。

今後、構想の実現に向けて着手可能なものから順次取り組んでまいります。

区 分	50年後のめざす姿	今後の方向性
エ リ ア 全 体	大都市近郊に残された野幌森林公園の豊かな自然環境をフィールドに、異なる世代、様々な国や民族、障がいの有無などに関わらず、訪れる利用者のすべてが、北海道の歴史や文化、自然を五感で「体感」し、交流できる賑わいのある持続可能な空間を目指します。	
博 物 館	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから大人まで多くの方が繰り返し訪れています。 ・中核的博物館として、道内各地での学びや地域の活性化をサポートしています。 ・観光客増加に寄与しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本道の中核的博物館、道民参加型博物館として更なる魅力向上に努めます。 ○国立アイヌ民族博物館等との役割分担を考慮に入れながら幅広い連携を図ります。
開 拓 の 村	<ul style="list-style-type: none"> ・主に開拓期の歴史を体験的に学び、未来への発展の心を養う場としての役割を果たしています。 ・道民のみならず多くの訪日外国人に人気の場所となっています。 ・積雪寒冷地における歴史的建造物の保存・展示施設として、様々な取組を実践しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○博物館としての役割を基本としながら、国内外からの旅行者をターゲットにした観光拠点古民家再生等人材育成拠点としての活用を図ります。

1. 交流空間構想の策定に至る経緯について

区分	50年後のめざす姿	今後の方向性
百年記念塔 記念塔前広場	<ul style="list-style-type: none"> ・道民のみならず、国内外からも数多くの方々が訪れ、家族や仲間と楽しむ交流空間となっています。 ・大地の手広場には、人と人とのつながり、絆を大切にしようという建造の精神が引き継がれています。 ・周辺広場は、周囲の自然豊かな森林を背景に、安全で心安らく憩いの場としての役割を果たしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ○記念塔は利用者の安全確保や将来世代の負担軽減等の観点から、解体もやむを得ないと判断し、その跡地には、新たなモニュメントを設置することとします。 ○周辺広場は、自由に散策できるなど広く開放された交流空間とするため、利用規制の緩和に向けて検討を行うとともに、安心して利用するための施設の安全性向上に努めます。
モニュメント	<ul style="list-style-type: none"> ・はるか太古から連綿と続く北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとします。 	

50年後の道民に引き継ぐ思い

多くの人たちの労苦と知恵とチャレンジ精神によって築かれてきた北海道。先人に学び、感謝しながら、私たちは北海道への思いを次代へとバトンタッチしていきます。世界のどこにも例のない、北の大地の歴史と文化と自然。その素晴らしい価値を、広く、深く伝えながらさらに創造していきます。

1. 交流空間構想の策定に至る経緯について

(3) 交流空間構想の実現に向けて

野幌森林公園エリアの活用の方向性（令和3年1月）

交流空間構想の実現に向けて具体的に推進するため、エリア全体を「文化観光、食（賑わい）」と「地域、道民（還元）」といった視点から検討し、活用の方向性を取りまとめました。

区 分	主 な 項 目
エ リ ア 全 体	<ul style="list-style-type: none"> ■キャッシュレス化、多言語化など、利便性の向上 ■SNSの活用など、情報発信の強化 ■駐車場、レストランなど、施設の充実 ■バス交通の充実、レンタサイクルの活用など、利用者アクセスの向上 など
博 物 館	<ul style="list-style-type: none"> ■オリジナル商品の開発など、ミュージアムショップの充実 ■ナイトミュージアム、VRの導入など、新たな楽しみ方の提供 ■展示品、特別展の充実 など
開 拓 の 村	<ul style="list-style-type: none"> ■宿泊、コスプレ体験やガイドの充実など、利用者が楽しめる機会の充実 ■フィルムコミッション、テナント貸しなど、民間事業者への開放 ■人材育成や技能習得・伝承の場としての活用 など
百 年 記 念 塔	<ul style="list-style-type: none"> ■メモリアルモデル（ミニチュア）の制作 ■思い出・記録の承継 ■新たなモニュメントの設置、既存レリーフ等の活用 など
百 年 記 念 広 場	<ul style="list-style-type: none"> ■桜の植樹、フラワーパークなど、花木植栽 ■キッチンカーなど、飲食物の提供 ■地元農産物を取り扱うファーマーズマーケットの開催 ■歩くスキー、そり、グランピング、パークゴルフなど、体験、遊びの場の提供 ■野外コンサートなど、イベントの開催 ■噴水、水辺の創作

2. 百年記念塔の解体の判断に至った道の考え方について

(1)百年記念塔の概要について

■設置目的

本道の発展につくした有名無名のすべての先人に対する感謝の心と、北海道の輝く未来を創造する決意と躍進北海道の姿を力強く象徴するもの

■沿革

昭和41年(1966年)	建設決定(北海道百年記念事業実施方針)
43年(1968年)	着工(建設主体:北海道百年記念塔建設期成会)
45年(1970年)	完成(期成会から道に寄付)
46年(1971年)	一般公開
平成26年(2014年)	立入禁止

■規模など

規模	地上25階建て(高さ100m)
構造	鉄骨トラス構造
外装材	無塗装耐候性高張力鋼板(コールテン鋼)※
建設費	4億9,368万円(うち寄附金2億6,331万6千円)
設計	井口健氏(設計競技(コンペ)にて選定)
施工	伊藤組土建株式会社
壁面レリーフ	佐藤忠良氏「開拓」

※耐候性高張力鋼板

大気腐食環境において普通鋼材に比べ緻密なさび(保護性さび)が形成しやすく、腐食速度がより低減することを特徴とする鋼材。

塗装の省略によってメンテナンス費の節減が期待できるが、環境条件が適切でない場合などでは、保護性さびの生成が妨げられて腐食の問題が生じる可能性があるため、使用に当たってのガイドラインが制定されている。

2. 百年記念塔の解体の判断に至った道の考え方について

(2)百年記念塔の維持管理について

完成から10年を経過した昭和55年以降、概ね10年ごとに専門家の方々による塔の現況調査を実施し、修繕など対応すべき事項と費用を示した10年間の保守管理計画を策定した上で、老朽化した箇所への修繕や改修工事を計画的に実施してきました。

昭和55年度(1980年)	保守管理計画策定調査報告書 (日本建築学会北海道支部)
平成2年度(1990年)	保守管理計画策定調査報告書 (日本建築学会北海道支部)
平成13年度(2001年)	保守管理計画策定調査報告書 (日本建築学会北海道支部)
平成23年度(2011年)	保守管理計画策定調査報告書 ((株)ドーコン)

上記の調査に加え、塔の周辺で錆片の剥離・落下が確認されたことから、平成9年に塔の現況調査を行い、その調査結果に基づき、平成11年度に大規模な修繕を実施しました。

平成9年度(1997年) 外板補修調査報告書 (日本建築学会北海道支部)

■補修費等の状況

平成28年度までの補修費等の合計は、8億6,203万5千円となっています。

※上記のうち大規模な改修工事 (単位 千円)

年度	工事費	内 容
平成4年度	203,425	エレベーターの更新など内部改修費
平成11年度	345,450	外部パネル接合部に係る錆片の除去など外部改修

2. 百年記念塔の解体の判断に至った道の考え方について

(3)百年記念塔の現状について

塔の現状について、設計・施工の専門業者による調査結果は次のとおりです。

(令和3年度 北海道百年記念塔維持管理計画策定調査報告書より抜粋)

■主体鉄骨部

全体的には現状の鉄骨本体は、第一次調査での塔内清掃と表面の錆処理・再塗装を10年サイクルで実施する計画が実行されてきたことから現在も著しい損耗は見受けられない。

■外板部

外板に使用されている耐候性高張力鋼板は、無塗装で数年間かけて表面に密で硬い酸化皮膜（安定錆）が形成され腐食の進行が防止される特徴がある。ただし、安定錆の形成は表面が外気にさらされて適度な乾湿が繰り返され、風雨によって表面に浮いた粉錆が洗い落とされることが条件となる。外板は、風向きの関係で各面で若干の色調の差異があるものの、外板の表面に安定錆が形成されている。

問題点は、水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所での錆の進行でトラブルが発生している。外板と縁アングルの接合面、縁アングル相互の接合面、塔体内部の凹凸部に顕著な発錆が認められ、特に接合面の発錆は外板の変形や溶接部の破断を伴って更に進行すれば、外板の剥離、落下を招く危険性がある。

その防止策として、外部からの補強は不可能なため、内部から外板と縁アングルとを断続溶接により剥離危険の予測される箇所から5年程度かけて順次補強した。また、凹凸部のある目地部は複雑な形状から水湿状態が解消出来ない箇所は溶接破断やボルト腐食が認められるため、清掃、錆の除去、ボルトの更新を継続的に行ってきた。

しかしながら、新たな箇所で穴あきが確認されるなど、前回の調査以降、錆や腐食が進んでおり、振動や衝撃が加わった場合には、部材が落下する可能性が認められる。経年と共に損耗箇所はさらに広がることが予測されるため、大規模修繕の早期実施とともに、継続的な修繕を行う必要がある。

2. 百年記念塔の解体の判断に至った道の考え方について

■エレベーター部

エレベーターは、記念塔の点検・維持保全用として塔の竣工と共に設置されたが、機種は防湿用であるが本体は一般用仕様のため、入口枠・敷居等は発錆劣化が著しかった。そこで平成4年にステンレス製の乗用エレベーターに取替え、シャフトの内部改修も平成14年から実施しているが、エレベーター本体は耐用年数（25年）を4年経過しており、早急に更新が求められる。

■階段部

部分的な劣化は進んでいる箇所もあるが、著しい破損等は見受けられず、今後も経常的な措置が必要となる。

■内部排水部

最下階に土間を設けたことで、塔内の高湿度が改善され良好な環境となっており、鋼材に対しても腐食進行の防止策となっている。

■その他の部位

電気ケーブルやボックスは、今まで手をかけていないため腐食が著しく、電気系統の総点検を実施して改善すべきと思われる。

外構部では池の石積が経年劣化に伴い随所で剥がれが目立つこと、また排水溝に塵埃が堆積して不衛生なことは、一般客に配慮が欠ける事から改善が必要である。

2. 百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について

道では、百年記念塔の保存・活用に向けて、建築の分野をはじめ専門家の方々からご意見を伺い、様々な観点から検討を重ねました。

塔の外板の穴あき、波打ち及び錆片の落下は、主に雨水の塔内部への浸入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されますが、**塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、今後の老朽化の進行を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至り、錆片などの落下が続く中、公園を利用される方々の安全を確保するためには、解体もやむを得ないと判断いたしました。**塔の安全性に関する専門家の方々のご意見等は次のとおりです。

(4) 百年記念塔の安全性について

■平成9年 外板補修調査報告書（日本建築学会北海道支部）より抜粋

【外板錆の要因】

耐候性高張力鋼板の特色は、この塔の外板のように無塗装で使用した場合には、数年間で表面に密で硬い安定錆が形成され、腐食の進行が防止される点である。ただし、安定錆の形成は、表面が外気にさらされて適度に乾湿が繰り返され、風雨によって表面に浮いた粉錆が洗い落とされることが必要である。

この塔の場合、外板表面、裏面共若干の色調差はあるものの全般的には安定錆が形成されていると云える。**問題点は水湿に触れたまま乾燥する機会の少ない箇所での錆の進行で、米国と異なり高温多雨の我が国ではこの点のトラブルが発生し易い条件にある。この弱点を誘因する環境が外板と縁アングルの接合面に顕著な層状錆として現れたことである。**

このまま放置すれば錆は成長し続け、それが錆片落下という深刻な状態になりかねない。

従って緊急の錆対策が必要であるが、錆発生のも因である水分の滞留を排除しない限り根本の解決にはならない。しかし、そのために現状の接合状態を改善することは多くの問題を抱えている。

【錆の落下防止対策について】

進行錆の発生は外板の接合部分に顕著に見られるが、根本的な対策としては雨水の滞留の要因となっている外板と縁アングルの接触面を離すこと、及び外板の凹部分を無くすることが有効と思われる。しかし

2. 百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について

(前ページからの続き)

ながら現状の状態での改修を行うことは全面貼替え案（17億円）に近い費用を要する。そこで本報告書では次善の策として錆の落下防止を主目的にして物理的により進行錆を落とし、今後の錆の進行を遅延させるため、浸透性防錆塗料を塗布する案（2.9億円）を提案した。

【今後の問題点】

本体鉄骨の健全性、及び外板の主要部分の安定錆の発生状態を考えると継続的な保守管理をすれば、今後共長期にわたって存続することが期待できる。**問題は外板周辺部の錆の進行とその剥落であり、その程度を軽減する処置はとれるにしても完全に防止することは困難である。完全に錆の発生や錆の剥落を除去するには、塔全面の外板を取り替えざるを得ないが、相当な費用を要する。**

■専門コンサルによる調査結果

ただちに倒壊する危険性はないものの、塔内の展望室に立ち入りできるように原状復帰した場合においても、**今後、部材の腐食等による不測の落下事故を完全に防ぐことは、物理的にも不可能に近いこと**からその対策として、立入禁止エリアの設定、落下事故防止用屋根付きの通路が必要。

■専門家ヒアリングでのご意見

耐震性、耐風性の担保など安全性が第一である。錆片など飛散物もあることから、現状を維持しようとして周囲に立入禁止エリアをつくっても、上部の鉄板が落ちるようなことがあれば、安全とはいえないのではないかと。

■外板の素材メーカーによる調査結果

特定箇所、外板パネルの穴あき、波打ち、及び錆片の落下が確認される。これらは、**主に雨水の塔内部分への浸入と雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定。これ以上の腐食進行を抑制するためには、雨水の浸入を抑制するための対策や排水の工夫等の補修対応が必要と考えられる。**

2. 百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について

(5) 将来世代の負担について

道では、平成29年度及び令和3年度に、今後50年間に想定される維持管理経費について、設計・施工の専門業者に調査委託を行いました。令和3年度に実施した調査結果の概要は次のとおりです。

■ 早期に措置すべき経費

(単位 千円)

工事内容など	展望室への立入可能	モニュメントとして維持
飛来防止通路の整備	75,500	-
見学者エリア内装改修	31,000	-
池外周立入禁止フェンスの設置	13,000	13,000
外構の改修、補修	1,160	1,160
外板腐食部補修	1,080	1,080
その他補修	3,050	3,050
計 (税抜き)	124,790	18,290

■ 経常的に措置すべき経費

(単位 千円/年)

工事内容など	展望室への立入可能	モニュメントとして維持	
5年サイクル	外部ルーパー下端見切板の腐食改修	3,250	3,250
	踊り場の腐食旧床の撤去	2,080	1,070
	低層部外板裾部の胴縁防錆措置	750	750
	計	6,080	5,070
10年サイクル	主体鉄骨の防錆措置	5,100	5,100
	角交換、取付アングルの防錆措置	1,050	1,050
	塔内清掃	840	420
	計	6,990	6,570
計 (税抜き)	(毎年必要な維持管理経費)	13,070	11,640

2. 百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について

■大規模改修経費

大規模改修の実施時期とサイクルについて、設計・施工の専門業者から示された内容は「前回の改修時期」と「経年劣化による腐食の進行具合」などを考慮し、外部改修は令和4年から20年ごと、内部改修は令和5年から20年ごとに実施するものとなっています。

また、経費については、前回の大規模改修の内容を参考に、現状の労務・資材単価を基に算定されています。

区 分	前回の改修時期
外部大規模改修	平成11年度（塔が完成した昭和45年から数えて29年目）
内部大規模改修	平成4年度（塔が完成した昭和45年から数えて22年目）

【外部大規模改修経費】

（単位 千円）

区 分	金 額
共通仮設費	36,110
直接仮設費	111,240
目地塗装工事費	75,310
建具他塗装工事費	210
ルーバー関連工事費	29,870
防鳥金網他工事費	35,070
目地補強工事費	43,680
踊場床張替工事費	3,880
雑工事費	26,820
現場管理費	24,270
工事原価計 ①	386,460
設計料 ②	11,500
一般管理費 ③	44,040
工事価格 (①+②+③) ※税抜き	442,000

【内部大規模改修経費】

（単位 千円）

区 分	金 額
共通仮設費	38,500
直接仮設費	37,870
主体鉄骨補修関連工事費	37,720
外板鉄骨補修関連工事費	22,000
内装改修関連工事費	34,290
エレベーターシャフト関連工事費	17,710
キャットウォーク関連工事費	13,220
点検口関連工事費	5,140
電気設備関連工事費	9,080
現場管理費	17,620
工事原価計 ①	233,150
設計料 ②	6,900
一般管理費 ③	26,450
工事価格 (①+②+③) ※税抜き	266,500

※展望室への立入を可能とする場合は、別途

「見学者エリア内装改修 31,000千円」が加算

2. 百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について

■維持管理経費の年次別推移

大規模改修経費や経常的に措置すべき経費など、今後の維持管理経費の年次別推移は次のとおりです。

【展望室への立入可能】

(単位 千円)

年度	金額	年度	金額	年度	金額
R4	530,500	R24	442,000	R44	442,000
R5	386,800	R25	297,500	R45	297,500
R6	13,070	R26	13,070	R46	13,070
R7	13,070	R27	13,070	R47	13,070
R8	13,070	R28	13,070	R48	13,070
R9	13,070	R29	13,070	R49	13,070
R10	13,070	R30	102,370	R50	13,070
R11	13,070	R31	13,070	R51	13,070
R12	13,070	R32	13,070	R52	13,070
R13	13,070	R33	13,070	R53	13,070
R14	13,070	R34	13,070	R54	13,070
R15	13,070	R35	13,070		
R16	13,070	R36	13,070	計	3,073,750
R17	13,070	R37	13,070		
R18	13,070	R38	13,070		
R19	13,070	R39	13,070		
R20	13,070	R40	13,070		
R21	13,070	R41	13,070		
R22	13,070	R42	13,070		
R23	13,070	R43	13,070		

※税抜き、R5、R30のうちエレベーター更新費89,300千円

【モニュメントとして維持】

(単位 千円)

年度	金額	年度	金額	年度	金額
R4	455,000	R24	442,000	R44	442,000
R5	355,800	R25	266,500	R45	266,500
R6	11,640	R26	11,640	R46	11,640
R7	11,640	R27	11,640	R47	11,640
R8	11,640	R28	11,640	R48	11,640
R9	11,640	R29	11,640	R49	11,640
R10	11,640	R30	100,940	R50	11,640
R11	11,640	R31	11,640	R51	11,640
R12	11,640	R32	11,640	R52	11,640
R13	11,640	R33	11,640	R53	11,640
R14	11,640	R34	11,640	R54	11,640
R15	11,640	R35	11,640		
R16	11,640	R36	11,640	計	2,840,900
R17	11,640	R37	11,640		
R18	11,640	R38	11,640		
R19	11,640	R39	11,640		
R20	11,640	R40	11,640		
R21	11,640	R41	11,640		
R22	11,640	R42	11,640		
R23	11,640	R43	11,640		

※税抜き、R5、R30のうちエレベーター更新費89,300千円

2. 百年記念塔解体の判断に至った道の考え方について

(6)保存方法の検討について

百年記念塔のあり方について、道民の皆様や専門家の方々から幅広くご意見を伺う中で、百年記念塔を保存する方法として、『交流空間構想』でお示しました「展望室への立入を可能とする場合」（原状復帰）と「モニュメントとして維持する場合」（現状維持）のほか、「外壁の素材を変更する方法」や「低層部のみ保存する方法」、「自然に朽ち果てるのに委ねる方法」などのご意見もいただいたことから、これらの方法についても検討を行いました。

「外壁の素材を変更する方法」や「低層部のみ保存する方法」については、本来の記念塔の姿をとどめていないことに加え、多額の経費が必要となること、「自然に朽ち果てるのに委ねる方法」については、公園を利用する方々の安全確保が難しいことから、採用しませんでした。

3. 百年記念広場（仮称）の整備について

(1) 百年記念塔の解体工事費について

百年記念塔の解体に係る実施設計の結果、解体工事費は概算で約7億2,000万円となりましたが、今後、跡地において、新たなモニュメントの設置や広場の整備などを予定していることを踏まえ、工事内容及び金額の精査を行っています。

(2) 新たなモニュメントについて

記念塔を解体した跡地には、新たなモニュメントを設置することとしています。

記念塔に替わる新たなモニュメントは、はるか太古から連綿と続く北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うものとしします。

また、記念塔にある佐藤忠良氏のレリーフや解体材の有効活用を検討するほか、耐久性や今後の維持経費にも配慮します。

これらの考え方にに基づき、より多くの方々からご提案をいただきながら、新たなモニュメントを囲む広場とともに、道民の皆様が親しまれる存在となるよう、具体的な検討を進めてまいります。

(3) 百年記念広場（仮称）整備事業について

（別添資料）

北海道百年記念広場(仮称)の整備について

道では、平成30年(2018年)に北海道命名150年の節目を迎えるにあたり、昭和40年代に北海道百年記念事業の一環として整備した北海道博物館(旧開拓記念館)、北海道開拓の村、北海道百年記念塔を、次の世代にどのような形で引き継ぐべきか、平成28年(2016年)から、学識経験者や専門家の方々、道民の皆様から幅広くご意見をいただくとともに、道議会でのご議論を踏まえ、50年後を見据えた『ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想』を策定しました。

この構想において、北海道百年記念塔と塔前広場については、老朽化の進行を完全に防ぐことは困難なため、利用者の安全確保と将来世代への負担軽減の観点から、新たなモニュメントを配置した安全かつ安心して利用できる広く開放された交流空間とすることとし、その具体化に向けて取り組んでいます。

構想の具体化に向けた基本的な考え方

施設ごとの点としてではなく
自然豊かな周辺地域を含めたエリア全体を対象に、
歴史・文化・自然を五感で「体感」し、
国内外から訪れる多くの人々と交流できる
賑わいのある空間として再生します。



50年後の 目指す姿

この広場は、道民のみならず、国内外からも数多くの方々が訪れ、家族や仲間と楽しむ交流空間になっています。広場の中心にあるモニュメントは、はるか太古から連綿と続く北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担っています。また、大地の手広場には、人と人をつなぎ、絆を大切にしようという建造の精神が引き継がれています。利用者の方々は、犬を連れて自由に散策したり、友人や仲間たちとバーベキューやボール遊びを楽しむなど、周辺の自然豊かな森林を背景に、安全で心安らく憩いの場としての役割も果たしています。

北海道百年記念広場（仮称）整備事業 イメージ図

（写真や各デザイン等は、参考イメージ）

百年記念塔は、先人に対する感謝と躍進北海道のシンボルとして、また道民の貴重な財産として長く親しまれてきました。

しかしながら、記念塔は、建設から50年近くが経過し、老朽化が進み、錆片などの落下もあることから公園利用者の安全性を確保することが重要であるため、平成26年7月から立入禁止としています。

道では、これまで様々な専門家の方の知見を伺いながら記念塔の維持管理の方法等を検討してきました。

記念塔の外板パネルの穴あき、波打ち及び錆片の落下は、主に、雨水の塔内部への侵入や雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定されますが、塔の構造上、雨水の浸入を完全に防ぐことや、これ以上の排水対策は難しいことから、今後の老朽化の進展を完全に防ぐことは困難であるとの結論に至りました。

このため、利用者の安全確保や将来世代への負担軽減等の観点から、解体もやむを得ないと判断し、その跡地には、新たなモニュメントを設置することとします。（発展的継承）

■未来志向に立った将来の北海道の象徴「新たなモニュメント」の設置

◇具体的な取組例

- ・レリーフや解体材の有効活用を検討
- ・耐久性や今後の維持管理にも配慮



■「大地の手広場」の建造の精神の継承

◇具体的な取組例

- ・屋根の設置（太陽光発電）

※大地の手は、「青年の像『大地の手』実行委員会」がボランティアで創造・設置運動を進め、昭和48年10月に完成、道に寄贈されたもので、国内外合わせて約5,300人が参加し、元横綱大鵬等道内にゆかりのある著名人の手形もあります。



道立埋蔵文化財センター

- 利便性の向上（バリアフリー、多言語化等）
- 情報発信の強化
- 利用者アクセスの向上（バス交通の充実等）

北海道開拓の村

- ・ 歴史的建造物の価値向上
- ・ 利用者が楽しめる機会の充実

■動物たちとのふれあいやシーン・四季を通じた体験・遊びの提供

◇具体的な取組例

- ・ スキー・そり・グランピング・パークゴルフ・ドッグランの整備 等



人々が行き来し、各施設に賑わいが広がる

北海道博物館

- ・ 展示品、特別展の充実
- ・ 新たな楽しみ方の提供

■噴水・水辺の創作

■草花による彩りの創出

◇具体的な取組例

- ・ 花壇の設置・桜の植樹 等



百年記念広場

記念塔跡地

大地の手広場

歴史・文化 体感・交流エリア

道民の皆様のご意見や、民間事業者からの提案を踏まえながら、新たなモニュメントを中心とする賑わいのある広場の整備を推進します。

自然 体感・賑わい創出エリア

芝生広場

プロムナード

噴水

正面広場

駐車場

構想で示した方向性とアンケートやワークショップ等で寄せられたアイデアをもとに作成

■子どもの水遊びとして、噴水・水辺の創作（噴水の再整備）

※プロムナードと一体的に整備



羊ヶ丘展望台 噴水

■民間活力の活用等による賑わいの創出

◇具体的な取組例

- ・ キッチンカーによる飲食物の提供
- ・ ファーマーズマーケットの開催 等



花フェスタ 2014

北海道百年記念広場（仮称）の整備スケジュール

	令和3年度(2021年度)	令和4年度(2022年度)	令和5年度(2023年度)	令和6年度(2024年度)
記念塔解体	・実施設計	・解体工事		
広場整備	・広場等の整備条件検討	・レガシー（解体材や記憶等）を活かす広場やモニュメント及び事業手法に関するサウンディングの実施	・サウンディングを踏まえた事業計画等の策定	・広場の整備

広場整備等に必要な財源について

広場等の利活用を踏まえ、国の支援・補助制度やPFI、クラウドファンディング等の民間の資金・ノウハウ等を**最大限活用**するとともに、今後の維持経費にも十分配慮して整備を進めます。

《お問い合わせ》
北海道環境生活部文化局文化振興課
TEL：011-231-4111（代）
MAIL：kansei.bunka@pref.hokkaido.lg.jp